

行政視察報告書

視察報告議員 馬見塚 剛

【視察期間】 令和5年6月5日～7日

【視察地】 山口県周南市

【視察日時】 6月5日（月）

【調査項目】 周南市水素利活用計画について

【調査概要及び所感】

周南市の「水素利活用計画について」の視察では、周南市では基本目標に①水素の利活用促進に向けた環境の整備②水素の利活用による低炭素・省エネ・災害に強いまちづくりの推進③水素関連ビジネスの創出と市内企業の連携・競争力の強化を掲げ、令和5年度までの取り組みを具体化していました。

基本施策として①水素サプライチェーンの構築②水素ステーションを核とした地域づくりモデルの構築③水素関連産業等に関する人材育成・事業所支援の充実④市民・企業等への普及・啓発事業の強化に取り組んでおり、中でも具体的な取り組みとして、水素ステーションを核とした環境にやさしいエリアの構築として、市場と市場周辺での水素供給・管理体制の構築や純水素型定置用燃料電池の設置、市場の倉庫間でのフォークリフトの活用などを現地視察することが出来ました。

周南市では、市事業の取り組みとして、燃料電池自動車の普及に向けた促進や可搬型外部給電器の導入、水素学習室の開設など、来たるべき水素社会について先進的な取り組みがなされており、本市においても参考となる視察となりました。

【視察地】 和歌山県和歌山市

【視察日時】 6月6日（火）

【調査項目】 移住・定住に関する支援制度について

【調査概要及び所感】

和歌山市の「移住・定住に関する支援制度について」では、まずはじめに和歌山市の立地条件が大きく移住を促進していると感じました。大阪中心部から特急電車で約1時間であり、緑あふれる豊かな自然と、黒潮がもたらす温和な気候に恵まれており、住みやすい環境であると感じました。

具体的な取り組みとしては、和歌山市を知ってもらうための移住者向け PV や移住相談窓口の強化、移住支援金の充実などが行われており、令和4年度においては新型コロナウイルス感染症による在宅勤務などが拍車をかけ、移住相談件数が304件、移住者数が184名となっており、移住者の移住元は大阪が最多となっており、次いで東京都、兵庫県となっていました。移住理由の内訳として「Uターン」が多く、特にテレワークしながらの移住の方が多くなっているとの報告を受けました。移住を希望する方々から見れば、都会も田舎も兼ね備える和歌山市が魅力的に感じるように思えました。本市における移住促進に参考となる先進的な視察となりました。